

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	時間に追われることなく、笑顔で、1人ひとりに合わせることで、一人の人として接するケアを行いたいという思いから、「明るく・優しく・温かく」を施設のモットーとしていますが、グループホームとしての理念は現在確立されていません。		施設全体のモットーは今までどおり大切にした上で、理念の必要性、グループホームとしての特徴を全職員と話し合い、独自の理念が確立されることが期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在はモットーに基づき、毎日実施される朝礼や会議の場で、認知症を特別扱いするのではなく、利用者の欲求を尊重し、また、できない時にはしっかりと説明をして理解を求めるために実践できることの検討がされています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	モットーがパンフレットに掲載されていますが、それ以外の取り組みは現在のところ行われておりません。		理念の確立後、運営推進会議・家族会・行事・回覧板などの機会を使って、理念に基づいた事業所の取組みを家族や地域に理解してもらい取組みがされることを期待します。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のボランティアや子供達のキャンプの受け入れや、地元のお祭りへの参加が行われていますが、町内会との関わりに関して、まだ取組めることが残されています。		町内会主催の行事への参加のみならず、事業所主催の行事へ町内会の人を招待するなど、交流の機会を積極的に設け、事業所が近所の住民として認識してもらえるような取組みを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	訪問調査に先立って、評価に関する勉強会、自己評価を全職員で行うなどの取り組みが行われ、評価の結果を受けて改善点への取組みを行うことが計画されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されていますが、現状、事業所からの報告が主で、構成員からの意見があまり無いという状況となっています。		事業所側から聞いてみたいこと、お願いしたいことなどを具体的に投げかけてみるなど、意見が出る為の工夫をされることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険担当課や包括支援センター担当者と何でも相談できる関係が構築されています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者から、職員相互の虐待防止に関する管理体制はできておますが、勉強会の開催、講習会への参加は現在行われておりません。		2月に予定されている講習会への参加、事業所内での勉強会を開催し、全職員の虐待防止に対する知識と意識を高めていくことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪が頻繁にあり、その際、利用者の日常の様子や預り金に関する報告と確認が行われています。また、不定期ではあるものの、行事の際には写真と手紙を送付がされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時の面談や相談窓口として管理者が対応をされており、家族からの意見や苦情の吸い上げは行われていますが、家族会の取組みは現在はされていません。		まず、家族会の意義とメリットの検討を十分に行い、利用者・家族にメリットがある形で取組みが行われることを期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からリーダーへ、リーダーから管理者へという意見や提案の流れが確立されています。また、朝礼の際には直接管理者との意見交換や、管理者との面談も行われていますが、建物の構造上、管理者と現場従業員が離れている機会が多くなってしまっています。		管理者・運営者からの面談の頻度や職員とともに過ごす時間を多くし、リーダーを介さなくても、直接何でも相談や意見が言える関係の構築を期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設サービスからの異動に関しては、日常から利用者や職員が行き来する中で顔見知りの関係が構築されています。また、退職や新任による異動に関しては、引継ぎの時間や利用者との関係構築の時間が確保されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	法人全体でのマニュアルがあり、必要なものは全て完備されています。また、それをベースに事業所やグループホームの特性に合わせ、適宜見直しが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、テーマを決め研修が行われています。また外部研修への参加も推奨されていますが、全職員が望む研修に参加することは難しく、一部の職員が参加したものを回覧で共有するに留まっています。		計画的に研修を実施することで、職員の計画的な成長や不安の解消を行うと共に、短時間であっても、知識や情報を共有する時間を設けることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織の同業者ネットワークへの参加と共に、3ヶ月に1回程度、地域の同業者との勉強会や懇親会に、管理者や職員が参加し、サービスの質の向上への取り組みがされています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員・リーダー・管理者・運営者という組織体制がしっかりと確立されており、リーダーが職員との信頼関係を構築することで、全体のストレス軽減への取り組みがなされていますが、建物の構造も影響し、現場と管理の関係に少し距離が感じられます。		運営者・管理者が職員とともに過ごす時間を多くし、職員の健康や精神状態の観察やコミュニケーションの機会を増やしていくことを期待します。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅へ訪問し、利用者に納得してもらうこと、職員との面識を持つことや、併設サービスの利用から始め、慣れるための期間を設けることなどの工夫がされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が、利用者が主体であるという考えのもと、利用者へ決定してもらうために、傾聴することが心がけられています。また、若い職員は生活の知識や知恵を教えられることが多くあり、被介護者としてではなく、人生の先輩として接するケアが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	これまでの来訪時のコミュニケーションを通して、時には厳しいことも言ってもらえる、また、お互いにお互いし合える関係が構築されています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談による情報収集、日常のケアの中から得られた情報を個人ノートに蓄積し、職員間の共有やケアプランに反映する取組みがされています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談や日常のケアの中から得られた情報の他、アルバムを持ってきてもらい、情報を引き出す工夫などがされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の日々のケアの中で得た情報の記録や家族からの情報を基に、モニタリングを行い担当者や管理者を中心に複数の職員で介護計画の作成が行われています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が生じた場合は、即座に見直しが行われていますが、変化のあまりない利用者に関しては、さらにきめ細やかな見直しの必要性があります。		職員からの情報を今以上に活かし、日々のミーティング時などにおいても、介護計画とケアのギャップが生じている利用者がいないかの確認を行い、見直し時期を待たずに状況に即した介護計画を作成されることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出支援において利用者や家族のニーズに最大限対応しているとともに、併設のデイサービスやショートステイとの垣根がないため、行事やボランティアなど、グループホームの枠を超えたサービスが受けられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診の支援とともに、協力病院での定期受診が行われています。医師との情報は、家族を介し事業所側から個人ファイルを提供し、診断内容は家族から収集が行われています。また、家族が付き添えない場合は、職員が付き添うことも行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化や終末期への対応方法は確立されていません。		重度化や終末期の対応は、非常にデリケートな問題ですので、事業所としての方針、家族への説明と同意、職員間での意識の統一などの取組みを一つひとつ確実に進められることを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する管理体制、ケアにおける羞恥心への配慮は徹底されていますが、プライバシーに関する研修などは行われていません。		プライバシーに関する配慮において、業務上起こりうるケースを想定し、検討会などを行うことで、職員の意識を今以上に高めていくことを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、現状のケアがその人らしい暮らしの支援になっているかを意識し、利用者一人ひとりのペースに合わせた、外出支援や入浴介助などの取組みが行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付けなどを利用者の能力に応じ、職員と共に行っているとともに、近所の人や家族が持ってきてくれた食材をメニューに加えるなどの工夫がされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導に努めているとともに、失敗した際の処理は、バックなどを使うことで、さりげなく行われる工夫がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間での入浴の支援がされています。また、入浴を拒否される利用者に対しては、効果的な声かけの共有を職員間で行うことや、家族と対応を相談し、誘導が行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態と希望、その日の気分に応じて、食事の準備や後片付け、買い物などの役割やオルガン演奏やそれに合わせて歌をうたうなどの楽しみの取組みが行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を基本に、個別に外出支援が行われています。行きたがらない利用者には無理強いをせず、デイルームの振動マシーンなどを利用し、屋内で体を動かす工夫がなされています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践し、身体拘束を希望する家族に対しても説得を行い、身体拘束を行わないことが徹底されていますが、職員に対する研修や勉強会の機会が現在、不十分なところがあります。		2月に予定している外部研修の内容を全職員に共有することや、ミーティングなどの機会を利用して事例検討を行い、全職員の身体拘束に対する知識と意識を高めていくことを期待します。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制限する施錠はされていません。また、利用者の出入りも目が行き届く構造になっているため、徘徊等への危機管理も問題がありません。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の転倒・窒息・薬などのリスク情報を把握し、個別の対応が取られているとともに、ヒアリ・ハット事例についても全員が対応策を共有していますが、今後起こりうるリスクについての検討に不十分なところがあります。		ミーティングなどの機会を利用して、可能性のあるリスクと対策を全職員で検討し、万全の準備がされることを期待します。
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応の流れは、事業所の実態に即したマニュアルの整備がされています。また、全職員が普通救命講習を受講していますが、定期的な訓練が現状、行われていません。		さまざまなケースを想定して定期的な訓練を行うことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに基づいた避難誘導訓練を行い、訓練の結果からマニュアルの見直しがなされています。しかし、地域の消防団や近隣住民を巻き込んだ取り組みはまだされていません。		消防署・消防団・近隣住民への働きかけを行い、地域と相互に助け合う関係作りを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスへの配慮、日々の食事量・水分摂取量の管理がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寄贈された利用者家族の作品、利用者が自宅で愛用していた物、職員の自宅で使われていた物がセンスよく飾られ、上品で落ち着いた印象の共有空間になっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが、思いおmoiの品物を居室に持込み、1人ひとり個性的な部屋になっています。		